

施策展開の柱（１） 交流や発信の場づくり

再開館後の県立美術館を、「美の発信に関する総合センター」と位置づけ、プラットフォームとしての機能を発揮する中で、関係者や県民の交流を創出するとともに、滋賀の多様な美の魅力を国内外に効果的に発信していく。

①美の発信に関する総合センター（プラットフォーム）の設置

| 専門職の学芸員を擁する県立美術館にプラットフォーム機能を付加し、本来の美術館としての活動とも関連付けながら、以下のような取組を展開する。 |                    | 具体的な取組（R3年度）  | 具体的な取組（R4年度）  | R3<br>決算額<br>（千円）  | R4<br>決算額<br>（千円） | R5<br>予算額<br>（千円） | 担当所属    |                  |
|--|--------------------|---|---|--|-------------------|-------------------|---------|------------------|
| ア  | 美の発信に係る統一的な事業展開    | ・「滋賀をみんなの美術館に」というコンセプトの具現化に向けて、統一的なロゴマークやキャッチフレーズの作成・活用や、広報PRやアートプロデュース等の専門家から助言を得ること等について検討し、統一的・戦略的に事業を展開する。  | ・ロゴマークの作成<br>・キャッチフレーズの作成・活用<br>・専門家からの助言   | ・ロゴマークの活用<br>・キャッチフレーズの活用  | 1,980             | —                 | 文化芸術振興課 |                  |
|  | 美の魅力の効果的な発信        | 多くのの人に滋賀の美の魅力に触れていただけるよう、「自然」、「歴史」、「伝統文化」、「暮らし」、「アートスポット」、「施設・作品」、「イベント」、「人」などカテゴリーごとに代表的な美の資源を抽出し、それらを専門ライターによる特集記事や、アートファン向け周遊コース等の形で、ホームページやSNS等から広く発信する。  | ・滋賀の美の魅力を県内外に発信する素材（代表的な美の資源、美術館等の文化芸術施設、各地域での取組、アートイベント等）を総合的に取材し、その魅力が伝わり、文化をテーマとした周遊に繋がる記事を作成し、情報サイトにて発信   | ・滋賀の美の魅力を県内外に発信する素材（代表的な美の資源、美術館等の文化芸術施設、各地域での取組、アートイベント等）を総合的に取材し、その魅力が伝わり、文化をテーマとした周遊に繋がる記事を作成し、情報サイトにて発信  |                   | 1,298             | 1,800   | 文化芸術振興課          |
| ウ  | 美の発信の応援団づくり        | 県ゆかりの作家、美術芸術活動団体、大学、企業、施設関係者、ギャラリーなど、美の発信を応援していただける関係者とのパートナーシップを構築し、幅広い発想と連携のもとで、持続的に事業を展開する。<br>また、「アートのひろば」など美やアートのイベント等に協力いただける方や、SNSや地域等で自ら美の発信を行っていただける方を募り、支援を必要とする活動主体とのマッチング等も行いながら、取組を充実していく。 | ・「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト補助金交付 8団体<br>・補助交付団体との連携事業（美術館内での展示等） 52件<br>・成安造形大学と連携し、美術館企画展の関連展示として、地域実践領域研究室が主体となる展示を行うとともに、関連企画として講演会やワークショップを実施<br>・滋賀県立大学と美術館の協働企画として「竹の会所のものがたり展」を美術館で開催 | ・「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト補助金交付 8団体<br>・補助交付団体との連携事業（美術館内での展示等） 54件<br>・株式会社 木の家専門店 谷口工務店主催の全国学生設計コンペ木の家設計グランプリ2022を美術館で開催<br>・公益財団法人平和堂財団と連携し、企画展「石と植物」にちなんだロビーコンサートを実施<br>・大津市および大津市観光協会と連携し、「山元春拳とあわせて膳所のゆかりの地を巡る見学会」を開催<br>・龍谷大学先端理工学部による「星空」をテーマにしたインタラクティブコンテンツを美術館で展示 | 5,994             | 5,929             | 6,000   | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| エ  | 団体や地域等が行う美の発信の取組支援 | 団体や地域が行う美の資源を活用したアートイベント等の取組を財政的に支援するとともに、合同企画展の開催など県立美術館の活動等を通して、将来を担う県内の若手作家を支援する。  |   |  |                   |                   |         |                  |

施策展開の柱（１） 交流や発信の場づくり

|   |                |   |   |  |        |        |        |                  |
|---|----------------|---|---|--|--------|--------|--------|------------------|
| オ | アール・ブリュットの魅力発信 | 身近な場所でのアール・ブリュット作品の映像展示やアール・ブリュットネットワークの活動を通じて、より多くの方にアール・ブリュットの魅力を伝え、関心を持つ人の輪を広げるとともに、ボーダレス・アートミュージアムN0-MAややまなみ工房など作品展示を行う県内施設、造形活動に取り組む福祉施設との連携を強化する。<br>また、県立美術館では、優れた作品の収集や展示を通じて、作品を後世に継承するとともに、美術作品として他の分野の作品とも関連付けながら、その価値を伝える活動を展開する。 | ・アール・ブリュット作品の宿泊旅館での展示<br>・アール・ブリュット作品の映像展示<br>・企画展「人間の才能 生み出すことと生きること」開催（令和4年1月22日～3月27日）<br>・常設展でアール・ブリュット作品の展示<br>・アール・ブリュット作品の収集 | ・アール・ブリュット作品の宿泊旅館での展示<br>・アール・ブリュット作品の映像展示<br>・美術館内にアール・ブリュットおよび信楽焼展示コーナーを設置<br>・企画展「塔本シスコ展 シスコ・パラダイス かかずにはいられない！人生絵日記」開催（令和4年7月9日～9月4日）<br>・常設展でアール・ブリュット作品の展示<br>・アール・ブリュット作品の収集 | 14,797 | 17,307 | 15,454 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| カ | 教育現場と連携した次世代育成 | 教育委員会と連携し、県立美術館における団体鑑賞や就労体験の受け入れ等を積極的に行う。<br>また、学校現場が、県立美術館等と連携した美術教育に取り組む際の支援など、子どもたちに滋賀の美の魅力を伝える取組を充実させる。  | ・学校団体鑑賞（10回、403人）<br>・学校出前授業（小中高特）プログラムの実施（32回、1,601人）  | ・学校団体鑑賞（42回、1,701人）<br>・学校出前授業（小中高特）プログラムの実施（25回、1,602人）<br>・大津市立石山中学校の職場体験（1週間）の受け入れ  | 0      | 0      | 0      | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| キ | 県施策との有機的連携     | 周遊観光を推進するPR事業や、「日本農業遺産」認定を活用したブランド力向上事業など他部局が推進している関連施策とも連携を図り、事業効果を高める。  | ・地元の観光協会と連携し、展覧会「野口謙蔵生誕120年展」の開催に合わせ、ゆかりの地を巡るバスツアーを開催。  | ・地元の観光協会と連携し、展覧会「川内倫子M/E」の開催に合わせ、写真集の舞台となった社会福祉施設等のゆかりの地を巡るバスツアーを開催。   | 150    | 150    | 200    | 文化芸術振興課          |

②出会い、学び、つながり、発信の場・機会の創出

| 県立美術館が立地するびわこ文化公園で、「アートのひろば」として、アート等に関するイベントやワークショップを定期的に開催し、出会い・学び・交流や賑わいを創出する。 | 具体的な取組（R3年度）                           | 具体的な取組（R4年度）                              | R3 決算額 | R4 決算額 | R5 予算額 | 担当所属    |
|--|--|---|--------|--------|--------|---------|
|  | ・美の糸口 ― アートにどぼん！プログラム開催（34件）<br>・チラシ作成 | ・美の糸口 ― アートにどぼん！プログラム開催（52件）<br>・ハンドブック作成 | 909    | 542    | 1,000  | 文化芸術振興課 |

これまでの成果と今後の課題（取組）

・多様な豊かな美の魅力が、各地域に満ち溢れている滋賀県全体を、あたかも、ひとつの「美術館」のように感じていただけるよう、『美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に』というコンセプトのもと、滋賀の美の魅力発信事業を展開することができた。  
・滋賀の美の資源を活用した県内各地域でのアートイベント等の取組への支援を行い、各団体の連携と情報発信を強化することができた。  
・県立美術館に「アール・ブリュットおよび信楽焼常設コーナー」を設置することで、県立美術館自体の魅力向上と併せて、滋賀ならではの文化資源をテーマにした観光や周遊のきっかけを作ることができた。  
・びわこ文化公園内をフィールドに、公園内各施設や県内の団体・作家等と連携し、子どもや親子連れを対象としたアートや文化関係のワークショップ「美の糸口 ― アートにどぼん！」を開催し、アートや滋賀の文化に触れることができるカルチャー・パークとしての賑わいに繋げることができた。  
・多様な団体との連携をより一層進めるとともに、今後のインバウンド需要に対応した効果的な発信を行う必要がある。

## 美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### 施策展開の柱（２）ネットワークを活かした多面的な発信

県立美術館と琵琶湖文化館を核に、県立施設間や美術系ミュージアム間で、有機的連携を図り、スケールメリットを活かしながら、話題性や発信力のある取組を展開する。  
県内の美術館・博物館 70 館で構成される滋賀県博物館協議会等とも連携し、県内各地域から、多様な美の魅力を発信する。

#### ①県立施設間の連携

|   | 具体的な取組（Ｒ３年度） | 具体的な取組（Ｒ４年度）  | Ｒ３<br>決算額<br>（千円） | Ｒ４<br>決算額<br>（千円） | Ｒ５<br>予算額<br>（千円） | 担当所属             |
|---|--------------|---|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 県立美術館と琵琶湖文化館を核に、美の発信に関連が深い 7 つの県立施設（陶芸の森、琵琶湖博物館、安土城考古博物館、埋蔵文化財センター、びわ湖ホール、文化産業交流会館、図書館）を加えた 9 施設で新たにネットワークを構築し、共同での企画やプロモーションなど、幅広い連携を図る。 | ・連携に向けた方針の検討 | ・県立施設（美術館、琵琶湖文化館、安土城考古博物館、琵琶湖博物館、陶芸の森）間の連携を構築する「美の魅力発信 5 館ネットワーク」の設置及び共同パネルの作成・展示 | 0                 | 594               | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

#### ②美術系ミュージアム間の連携

|  | 具体的な取組（Ｒ３年度） | 具体的な取組（Ｒ４年度） | Ｒ３<br>決算額<br>（千円） | Ｒ４<br>決算額<br>（千円） | Ｒ５<br>予算額<br>（千円） | 担当所属             |
|--|--------------|--------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 公立・私立の枠組みを超えた県内の美術系ミュージアム 6 館（佐川美術館、MIHO MUSEUM、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、県立美術館、琵琶湖文化館、陶芸の森）を中心に新たに会議体を立ち上げ、学芸員等の交流・連携を深めながら、様々な取組を検討していく。 | —            | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

#### ③滋賀県博物館協議会（県博協）等との連携

|  | 具体的な取組（Ｒ３年度） | 具体的な取組（Ｒ４年度）                                 | Ｒ３<br>決算額<br>（千円） | Ｒ４<br>決算額<br>（千円） | Ｒ５<br>予算額<br>（千円） | 担当所属             |
|--|--------------|--|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 県内には、県博協の加盟館など、多くの博物館、美術館、資料館があり、各地域の文化的資源の魅力に触れることができる。<br>こうした地域に根差した施設ともしっかり連携しながら、滋賀の多様な美を全体として発信していく。 | —            | ・県博協の研修事業（情報交換会・見学会）を、県立美術館において実施（講師：ディレクター） | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策展開の柱（２）ネットワークを活かした多面的な発信

④県立美術館と琵琶湖文化館（新文化館）の連携

|  | 具体的な取組（R3年度）  | 具体的な取組（R4年度）                                      | R3<br>決算額<br>（千円） | R4<br>決算額<br>（千円） | R5<br>予算額<br>（千円） | 担当所属                       |
|--|---|---|-------------------|-------------------|-------------------|----------------------------|
| 美の発信において重要な役割を担う２つの施設が有機的に連携することで、インパクトのある面白い事業展開が可能となり、集客や地域経済への波及という面でも大きな効果が期待できることから、今後、様々な形で両施設の連携を深めていく。 | ・共催企画展の実施に向けた検討<br>・美術館展覧会において文化財を出展するにあたっての文化館学芸員の協力 | ・令和5年度に開催予定の美術館と文化館の共催企画展「千年の秘仏と近江の情景」の実施に向けた各種調整 | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館<br>文化財保護課 |

これまでの成果と今後の課題(取組)

|  |
|--|
| ・「美の魅力発信５館ネットワーク」を設置したことにより、滋賀の美の魅力の多面的な発信に取り組むための連携体制を構築することができた。<br>・今後、各施設の有する美の資源をかけ合わせ新たな価値を作り上げる等の工夫を積み重ね、協働による滋賀の美の魅力の発信に取り組む必要がある。<br>・こうした取り組みを、他の県立施設や美術系ミュージアム等も含めた公立・私立の枠組みを超えた連携に繋げていきたい。 |
|--|

## 美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### 施策の柱(3) 美術館改革

令和3年(2021年)6月下旬の県立美術館の再開館に向けて、準備に万全を期すとともに、再開館後は、従来のイメージを刷新し、「かわる、かかわる」をコンセプトに、魅力あふれる美術館づくりに取り組む。

#### ①再開館に向けた対応

| 令和3年(2021年)6月下旬の県立美術館の再開館に向けた準備。 |                             |   | 具体的な取組(R3年度)  | 具体的な取組(R4年度) | R3<br>決算額<br>(千円) | R4<br>決算額<br>(千円) | R5<br>予算額<br>(千円) | 担当所属  |
|----------------------------------|-----------------------------|---|---|--------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------|
| ア                                | 館名の変更                       | 再開館にあたり、様々な表現や活動と柔軟に向き合い、社会や環境の多様性をより深く感じられる場となる美術館を目指して、特定の時代や傾向を想起させる「近代」を外し、「滋賀県立近代美術館」から「滋賀県立美術館」に館名を変更する。        | ・令和3年4月1日付けで条例を改正し、「滋賀県立近代美術館」から「滋賀県立美術館」に館名を変更   | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |
|                                  | ディレクター(館長)のリーダーシップを発揮した館の運営 | ディレクター(館長)が、リーダーシップを発揮しながら、館運営の方向性(ディレクション)を定め、館全体をマネジメントするとともに、専門的見識とネットワークを活かしながら、生まれ変わり社会と関わり続ける県立美術館の活動を広く発信していく。 | ・ディレクターのディレクションにより、各種展覧会や教育交流事業、連携事業等を実施  | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |
| ウ                                | ビジュアル・アイデンティティ(VI)デザインの導入   | 「かわる、かかわるミュージアム」をコンセプトに新たな館をイメージしたVIデザインを導入し、館内外の発信に統一的に使用する。   | ・リニューアルオープンに合わせて新たなVIデザインを導入し、館内外へ発信  | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |
| エ                                | 従来の施設イメージの刷新、リニューアル         | 賑わいのある美術館へ  | ・カフェ&ショップを設置<br>・椅子やテーブルを設置<br>・ラボやボランティア活動室の新設<br>・ポップ・アップギャラリーの設置<br>・エントランス前の植栽を芝生化<br>※令和2年度に実施 | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |
|                                  |                             | 作品の魅力をより楽しむ   | ・各展示室内装の張替<br>・LED照明の導入<br>・壁面ガラスケースの低反射施工<br>・ギャラリーの展示壁クロス張替とスポットライト導入<br>※令和2年度に実施                | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |
|                                  |                             | 人と作品の安全を守る  | ・ガス消火設備を各展示室に導入<br>・エントランスロビー天井の耐震化<br>・屋根の防水対策工事<br>・空調機器の更新<br>・防火シャッターの改修<br>※令和2年度に実施           | —            | 0                 | 0                 | 0                 | 県立美術館 |

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策の柱(3) 美術館改革

|  |               |   |   |   |   |   |       |
|--|---------------|---|---|---|---|---|-------|
|  | みんなにやさしく使いやすい | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各トイレの全面改修</li> <li>・ファミリールーム、ファミリートイレの新設</li> <li>・案内表示の更新</li> </ul> ※令和2年度に実施 | — | 0 | 0 | 0 | 県立美術館 |
|--|---------------|---|---|---|---|---|-------|

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策の柱(3) 美術館改革

|   |                 |  |  |  |       |       |       |       |
|---|-----------------|--|--|--|-------|-------|-------|-------|
| オ | WEBサイトの全面リニューアル | 県立美術館のホームページのデザインを一新し、展覧会や所蔵作品の情報をより分かりやすく伝えるとともに、スマートフォンや多言語にも対応し、その魅力を世界に向けて発信する。<br>また、建物内の4つの展示室に続く第5のバーチャル展示室として、「オンライン美術館」を開設し、子ども向けのアートプログラムや作家のインタビューなど動画を中心に、WEB上で美術館を楽しめるコンテンツを提供する。 | ・リニューアルオープンに合わせてホームページのデザインを一新<br>・ホームページでコレクションの一部を紹介<br>・「オンライン美術館」を開設 | ・「オンライン美術館」のコンテンツを追加<br>・ホームページのブラッシュアップ | 1,025 | 2,499 | 2,905 | 県立美術館 |
|---|-----------------|--|--|--|-------|-------|-------|-------|

②再開館後の展開

| 従来のイメージを刷新し、「かわる、かかわる」をコンセプトに、魅力あふれる美術館づくりに取り組む。 |             |   | 具体的な取組（R3年度）  | 具体的な取組（R4年度）  | R3決算額  | R4決算額  | R5予算額  | 担当所属  |
|--|-------------|---|---|---|--------|--------|--------|-------|
| ア  | 積極的な館のPR    | ディレクター（館長）の積極的な館外活動や、ここ滋賀、WEBや雑誌等の媒体を通じて、県内外に県立美術館の魅力を発信する。<br>また、各種事業の多言語化対応を進め、世界に向けて県立美術館の取組を発信する。   | ・プレスリリースを作成し、各種メディアに発信<br>・JR西日本などに交通広告の実施<br>・SNS（twitter, Instagram）での発信<br>・ディレクターの館外活動のサポート                           | ・プレスリリースを作成し、各種メディアに発信<br>・JR西日本などに交通広告の実施<br>・SNS（twitter, Instagram）での発信<br>・ディレクターの館外活動のサポート | 2,968  | 3,822  | 3,300  | 県立美術館 |
| イ  | 経済界とのつながり創出 | ディレクター（館長）が中心となって県内企業経営者等との交流を深め、アートシンキングやデザインシンキングといったアートとビジネスとの豊かなつながりが実感できる機会を持つことなどを通じて、県立美術館に対する共感の醸成やラーニング機能の充実を図る。   | ・ディレクターが、公益財団法人びわこビジターズビューローの理事に就任<br>・ディレクターが、文化経済フォーラム滋賀の幹事に就任<br>・ディレクターが、びわ湖ホール運営財団の評議員に就任<br>・法人サポーターの社員研修でディレクターが講話 | ・ディレクターが、陶芸の森の理事に就任   | 0      | 0      | 0      | 県立美術館 |
| ウ  | 展覧会改革       | 特色あるコレクションをより積極的に活用し、様々なテーマでその魅力を十分に感じていただける展覧会を行う。<br>また、滋賀にゆかりの作家や、建築、デザインや写真等、従来のコレクションの枠を超えた他分野とも交流しながら、他館では見られないオンラインワンの自主企画を実現するほか、従来の常設展もテーマ設定を明確にして、コレクションを軸に多様な主題を取り上げ、いつ来ていただいても見ごたえのある展示を実現する。 | ・企画展を3本開催<br>・テーマ設定を明確にした常設展を開催   | ・企画展を4本開催<br>・テーマ設定を明確にした常設展を開催   | 77,357 | 91,475 | 82,631 | 県立美術館 |

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策の柱(3) 美術館改革

|   |                             |  |   |   |     |     |       |       |
|---|-----------------------------|--|---|---|-----|-----|-------|-------|
| エ | 多様なアート体験の提供（教育・コミュニケーション事業） | <p>県立美術館に繰り返し訪れていただけるよう、年齢やニーズ等に合わせたきめ細かな鑑賞・体験プログラムを提供します。また、遠方の地域での出前講座や、学校現場と連携した美術教育に関する取組なども積極的に行っていく。</p> <p>さらに、より多くの子どもたちが、アートの魅力や新たな学びに出会えるよう、学校団体鑑賞や職業体験（中学生チャレンジウィーク）の積極的な受入を検討する。</p> | <p>・学校（小中高特）出前授業プログラムの実施（32回、1,601人）</p> <p>・学校団体鑑賞（10回、403人）</p> <p>・各種ワークショッププログラムの実施</p> | <p>・学校出前授業（小中高特）プログラムの実施（25回、1,602人）</p> <p>・学校団体鑑賞（42回、1,701人）</p> <p>・大津市立石山中学校の職場体験（1週間）の受入れ</p> <p>・各種ワークショッププログラムの実施</p> | 193 | 613 | 1,605 | 県立美術館 |
|---|-----------------------------|--|---|---|-----|-----|-------|-------|



美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策の柱(3) 美術館改革

| 従来のイメージを刷新し、「かわる、かかわる」をコンセプトに、魅力あふれる美術館づくりに取り組む。 |                     |  | 具体的な取組（R3年度）  | 具体的な取組（R4年度）  | R3決算額 | R4決算額 | R5予算額 | 担当所属             |
|--|---------------------|--|---|---|-------|-------|-------|------------------|
| オ  | 他施設との連携             | 琵琶湖文化館をはじめとする県立施設間、美術系ミュージアム間、県博協加盟館等、県内他施設との連携の中核となるとともに、地理的に近接する関西・中部圏のミュージアムと連携した活動や、アール・ブリュット等の特定のテーマに基づく全国のミュージアムと連携した活動を行う。  | -   | ・県立施設（美術館、琵琶湖文化館、安土城考古博物館、琵琶湖博物館、陶芸の森）間の連携を構築する「美の魅力発信5館ネットワーク」を設置  | 0     | 0     | 0     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| カ  | 美術館ボランティアの充実        | 県立美術館のパートナーとなって、県民と県立美術館との間をつなぐ架け橋となるボランティアを育成する。<br>県立美術館の展示やワークショップ等の事業に関連した活動を行っていただくほか、地域における講座開催等の担い手にもなっていけるよう、研修等を充実する。   | -   | ・ボランティアの募集・養成（登録35人、募集は2年ごとに行う予定）   | 50    | 13    | 8     | 県立美術館            |
| キ  | 経営の健全化              | 企画内容やサービスの充実を図り、来館者の満足度を高めるとともに、メンバーシップ制度を導入し、来館者やリピーターの拡大につなげる。<br>また、個人や法人向けサポーター制度の新設や、クラウドファンディングの導入など、共感・支援の輪を広げながら寄附の獲得に努める。さらに、国や民間財団の助成の積極的な活用や、職員のコスト意識向上に向けた取組もしっかり進め、経営の健全化を図る。 | ・県美メンバーズ制度の導入（年度末時点で1,144名）<br>・サポーター制度の導入（年度末時点で個人8名、法人5名）<br>・寄付受領（株式会社木の家専門店 谷口工務店1,500,000円、株式会社クマヒラ75,000円、帝産湖南交通株式会社75,000円、中山倉庫株式会社50,000円、滋賀県信用保証協会50,000円、個人計77,500円）<br>・企画展開催における各種助成の活用（人間の才能展にかかる文化庁からの助成） | ・県美メンバーズ制度の導入（年度末時点で1,044名）<br>・サポーター制度の導入（年度末時点で個人8名、法人5名）<br>・寄付受領（株式会社木の家専門店 谷口工務店1,500,000円、株式会社クマヒラ75,000円、帝産湖南交通株式会社75,000円、中山倉庫株式会社100,000円、滋賀県信用保証協会75,000円、個人計120,000円）<br>・企画展開催における各種助成の活用（山元春孝展における地域創造からの助成） | 1,212 | 986   | 2,418 | 県立美術館            |
| ク  | 県立美術館に至るまでのワクワク感の創出 | 文化ゾーンに足を踏み入れた時から、ワクワク感や高揚感を感じていただけるよう、公園内にアート感漂うミニチュメントやベンチ、展覧会の案内ボード等を設置していく。<br>また、最寄りの瀬田駅においても、大津市と連携し、美術館の玄関口にふさわしい雰囲気づくりや、案内の充実等を図る。  | ・リニューアルオープンに合わせて、公園内および瀬田駅にPRサインを設置（令和2年度中に施工（令和2年度決算額1,832千円））   | ・瀬田駅のPRサインを更新   | 0     | 386   | 1,500 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| ケ  | 公園内施設との有機的連携        | 「アートのひろば」の展開において、公園内の各施設と連携を図る。<br>また、隣接する県立美術館と図書館の間で人の行き来が生まれるよう、図書館による展覧会に関連する書籍の展示や、案内チラシの相互配布等を行う。  | ・図書館による関連する書籍の展示<br>・案内チラシ等の相互配布  | ・図書館による関連する書籍の展示<br>・案内チラシ等の相互配布<br>・美術館、図書館、埋蔵文化財センターの職員が定期的に懇談する場の設置  | 0     | 0     | 3,774 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

## 美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### 施策の柱(3) 美術館改革

#### ③さらなる施設機能の向上の検討

| 再開館後の状況や県の財政状況等を踏まえながら、さらなる魅力化に向けて、施設の機能向上の内容、実施のタイミング、優先順位、財源確保策等について、検討を進める。 |                  |   | 具体的な取組（R3年度）   | 具体的な取組（R4年度）   | R3決算額 | R4決算額  | R5予算額   | 担当所属             |
|--|------------------|---|--|--|-------|--------|---------|------------------|
| ア  | 収蔵後の収容力向上        | 狭隘化の進む収蔵後については、今後、アール・ブリュットや地域ゆかりの作家等のコレクションの充実を図る上で、収蔵庫の拡張を検討する必要がある。                | -  | ・美術館のさらなる魅力化に向けた検討着手のための庁内調整   | 0     | 0      | 510     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| イ  | 展示室の充実           | 保有するコレクションの質や量から見て十分な面積とは言えず、表現方法の多様化への対応も観点も踏まえて、展示室の充実について検討する必要がある。                | -  | ・美術館のさらなる魅力化に向けた検討着手のための庁内調整   | 0     | 0      | 510     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| ウ  | ギャラリーの充実         | 稼働率が高く、希望どおりに借りられないこともある。また、企画展とギャラリーの作品搬入ルートが交錯している点も課題のなっており、ギャラリーの充実について検討する必要がある。 | -  | ・美術館のさらなる魅力化に向けた検討着手のための庁内調整   | 0     | 0      | 510     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| エ  | 北側エントランスの整備      | 駐車場やバス停からのアクセス向上と、公園内の立地をより印象付けるため、池側(北側)に新たなエントランスを設けることを検討する。                       | -  | ・美術館のさらなる魅力化に向けた検討着手のための庁内調整   | 0     | 0      | 510     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| オ  | 館のシンボルとなる大型作品の設置 | 館のシンボルとなる大型作品を制作し、館外または館内に設置することを検討する。  | -  | ・美術館のさらなる魅力化に向けた検討着手のための庁内調整   | 0     | 0      | 510     | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |
| カ  | 施設の長寿命化          | 施設全体を長く活用していくため、長期保全計画に基づき、施設・設備の予防保全を計画的に実施していく。                                     | -  | ・作品用エレベータや空調設備などの更新・改修に向けた設計   | 0     | 10,594 | 354,250 | 県立美術館            |
| キ  | 環境負荷の低減          | CO2ネットゼロの実現に向け、美術館の活動や施設の運営において環境負荷の低減に努めるとともに、今後の施設の改修等に当たっても、環境負荷の低減に配慮する。          | ・展示造作等に際して自動車を利用する場合は、環境にやさしい運転に努めるよう委託事業者により依頼<br>・閉館後は速やかに展示室の消灯等を実施 | ・展示造作等に際して自動車を利用する場合は、環境にやさしい運転に努めるよう委託事業者により依頼<br>・閉館後は速やかに展示室の消灯等を実施 | 0     | 0      | 0       | 県立美術館            |

#### これまでの成果と今後の課題(取組)

・令和3年（2021年）6月に約4年振りに再開館を果たして以降、滋賀にゆかりの作家やコレクションを紹介する独自企画や他館との協働による意欲的な展覧会を開催するとともに、学校等との連携により県内各地の子どもたちへの美術鑑賞や創作を楽しむ機会を提供する取組などを行ってきた。

・さらに、事業の実施にあたっては大学をはじめ他機関との連携を深めるとともに、メンバー制度（会員）の充実や寄附の獲得や広報の充実など、運営の改善や安定化にも取り組んだ。

・令和6年（2024年）には開館40周年を迎えることを機に、これらの取組の一層の充実を図るとともに、さらなる施設機能向上の検討課題や近年の状況の変化に対応し、美術館が滋賀の美の魅力を発信する存在感のある施設となるために、令和5年度から魅力向上の施策の検討を始める。

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策の柱(3) 美術館改革

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

施策展開の柱（４）琵琶湖文化館のリスタート

平成２０年以来休館中の「滋賀県立琵琶湖文化館」について、近江の文化財を保存・継承・活用・発信する中核拠点「（仮称）新・琵琶湖文化館」として整備を図る。

|   | 具体的な取組（Ｒ３年度）   | 具体的な取組（Ｒ４年度）   | Ｒ３<br>決算額※<br>（千円）     | Ｒ４<br>決算額<br>（千円） | Ｒ５<br>予算額※<br>（千円）     | 担当所属   |
|---|--|--|------------------------|-------------------|------------------------|--------|
| 令和８年（２０２６年）春の建設竣工、令和９年度（２０２７年度）の開館を目指す。 | 令和３年３月に策定した「（仮称）新・琵琶湖文化館基本計画」に基づき、官民連携手法等導入可能性検討調査を実施したところ事業の実施手法はPFI（BT0）手法が適するとの評価を得た。 | （仮称）新・琵琶湖文化館整備事業として設計・建設・管理運営を一括発注するPFI事業に係る実施方針の策定や、特定事業の選定、入札公告等を実施。 | 22,344<br>（前年度からの繰越含む） | 76,819            | 44,153<br>（前年度からの繰越含む） | 文化財保護課 |

これまでの成果と今後の課題（取組）

|  |
|--|
| 令和３年３月に策定した「（仮称）新・琵琶湖文化館基本計画」に基づき、設計・建設・管理運営を一括発注するPFI事業として（仮称）新・琵琶湖文化館整備事業に係る実施方針の策定や、特定事業の選定、入札公告等を行った。今後は、令和９年度の開館に向け、整備事業の着実な実施を図る必要がある。 |
|--|

## 美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### プランの着実な推進に向けて

#### (1) 推進体制の整備

|  | 具体的な取組（R3年度）   | 具体的な取組（R4年度）   | R3<br>決算額<br>（千円） | R4<br>決算額<br>（千円） | R5<br>予算額<br>（千円） | 担当所属             |
|--|--|--|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 本プランに掲げる取組を推進するため、県において適切な体制を確保する。<br>特に、県立美術館は、「県立の美術館」としての側面と「美の魅力発信」の総合センターとしての側面がうまく融合しながら機能する組織体制を検討する。 | ・文化芸術振興課美の魅力発信推進室が県立美術館に執務室を設置（県立美術館教育・コミュニケーション室兼務） | ・文化芸術振興課美の魅力発信推進室が県立美術館に執務室を設置（県立美術館教育・コミュニケーション室兼務） | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

#### (2) 取組の進捗状況の確認と中間見直しの実施

|  | 具体的な取組（R3年度）        | 具体的な取組（R4年度）        | R3<br>決算額<br>（千円） | R4<br>決算額<br>（千円） | R5<br>予算額<br>（千円） | 担当所属             |
|--|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 毎年度、全体の進捗状況や目標の達成状況、課題等を検証しその後の施策展開に活かす。<br>取組3年目にあたる令和5年度にプランの見直しを行う。 | ・進捗状況及び目標の達成状況の検証実施 | ・進捗状況及び目標の達成状況の検証実施 | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課<br>県立美術館 |

#### (3) 文化観光推進法に基づく計画の策定

|   | 具体的な取組（R3年度）   | 具体的な取組（R4年度）                                  | R3<br>決算額<br>（千円） | R4<br>決算額<br>（千円） | R5<br>予算額<br>（千円） | 担当所属    |
|---|--|---|-------------------|-------------------|-------------------|---------|
| 今後の取組における財源を確保するため、県立美術館を中核施設として文化観光推進法に基づく拠点計画を策定し、国の認定を目指す。 | ・令和3年11月「滋賀県立美術館文化観光拠点計画」が文化庁・観光庁から認定（公立の美術館では全国5番目） | ・文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）交付決定 | 0                 | 0                 | 0                 | 文化芸術振興課 |

#### これまでの成果と今後の課題(取組)

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術振興課美の魅力発信室を県立美術館内に設置したことにより、県立美術館が美の魅力発信の総合センター機能を持つことができた。</li> <li>・今後双方の融合による美の魅力の発信を一層進めていく必要がある。</li> <li>・「滋賀県立美術館文化観光拠点計画」に基づき、滋賀の美の魅力を磨き上げるとともに、美術館を一つの観光コンテンツとして定着させることで、地域に根差した文化やアートを楽しみながら県内をめぐる文化ツーリズムの起点となることを目指していく。</li> </ul> |
|--|

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

プランの着実な推進に向けて

## 美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### 目標の達成状況

| 目 標                 |   |   | (R3年度)   | (R4年度)   |
|---------------------|---|---|--|--|
| 利用者数<br>(館外での活動を含む) | 【平成28年度】<br>■観覧者数 60,882人<br>(常設展) 24,061人<br>(企画展) 36,821人 | 【令和7年度】<br>■観覧者数 100,000人<br>(常設展) 40,000人<br>(企画展) 60,000人 | ■観覧者数 52,080人<br>(常設展) 22,475人<br>(企画展) 29,605人      | ■観覧者数 70,523人<br>(常設展) 36,404人<br>(企画展) 34,119人      |
|                     | ■教育・交流事業 参加者<br>49,328人                                     | ■教育・交流事業 参加者<br>60,000人                                     | ■教育・交流事業 参加者<br>4,019人                               | ■教育・交流事業 参加者<br>16,343人                              |
| 来館者の満足度             | 【平成27年度】<br>県立美術館の満足度<br>「大変良い」または「良い」<br>79.8%             | 【毎年度】<br>県立美術館の満足度<br>(滞在が有意義であったか)<br>「大変良い」または「良い」<br>90% | 県立美術館の満足度<br>(滞在が有意義であったか)<br>「大変良い」または「良い」<br>84.1% | 県立美術館の満足度<br>(滞在が有意義であったか)<br>「大変良い」または「良い」<br>89.8% |

### これまでの成果と今後の課題(取組)

・令和3年(2021年)のオープン以来、新型コロナウイルス感染症の影響も受け、企画展の観覧者数や教育・交流事業の参加者数などの利用者数について、目標を下回る状況にある。

・今後は、より多くの展覧会観覧者の獲得に努めるとともに、ギャラリーの利用促進等にも一層取り組み、目標の達成を図っていきたい。